

OISCA

— 人と育む、地球といきる —



〔TOPIC〕

生物多様性の保全

～国内の森づくりの現場から～

MAY | 5
2024

今月の OB & OG

日本で学んだオイスカ研修生の今をご紹介します。

オイスカ スピリット
Semangat OISCA
を忘れたことは
ありません！



FILE
No. 01

ジョニー・ビン・ギロン

(愛称：ジョニー)

- 出身国 マレーシア
- 研修歴 西日本研修センター／
農業一般コース (1981年1月～82年3月)
- 現在の職業 ゴム園経営、サバ州OB・OG会会長



研修生当時(西日本研修センター)

サバ州のOB・OG組織の活動をさらに盛り上げます！

皆さんこんにちは。私は、サバ州にあるKOR-ASオイスカ研修センター（現KPD/オイスカ青年研修センター）の第3期研修生です。研修修了後、1981年に来日し、西日本研修センターで農業を学びました。規律を求められる日本での研修は厳しいものでしたが、サバ州と似た豊かな自然の中で各国の研修生と寝食を共にし、固い絆を育んだ日々を今でもよく覚えています。

帰国後は、研修で培った日本語力を活かして、サバ州初の日本語ガイド資格を取得。ホテルや木材会社などでの勤務を経て、日本語ガイドとなり、「キナバル山」登山のガイドをしたり、サバ州に駐屯していた元日本軍兵士や、その遺族の方の案内をしたりなど、多くの日本人と関わる仕事を定年まで続けてきました。退職後は、サバ州のオイスカOB・OGの連携を強化するために2019年に組織された「PBPOS」（サバ州OB・OG会）の2代目会長として、被災地や

村落開発の支援、OB・OGの相互扶助活動などに積極的に取り組んでいます。

私の心の中には、絶えず“オイスカスピリット”が燃え続けています。これからも、サバ州のOB・OGと共にふるさとをより良くする活動に努めていきます！ 世界中のOB・OGの皆さん、“Think Globally, Act Locally”の気持ちで頑張りましょう！



サバ州の青年スポーツ省大臣と共にオイスカ村で植林



「子どもの日」に思う

5月5日は、昭和23年に「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」との趣旨で「こどもの日」という祝日に定められました。

その趣旨として、子どものお祝いだけでなく「お母さんに感謝する」と記されていることに感動しました。「こどもの日」に「お母さんありがとう」と感謝することは意味のあることだと思えます。もちろん、お父さんを含む家族の代表としてのお母さんです。

私の大好きな歌を紹介します。学校で教わった歌です。母こそはいのちの泉 愛し子を 胸に抱きて微笑めり 若やかに うるわしきかな母の姿

今では、この「母」はあらゆる生命のもと、宇宙を連想させてくれます。そして、「愛し子」は私たちの住む地球です。広大無辺な宇宙に他の星々と共にぼつかり浮かぶ地球。浮かんでいるのではなく、宇宙に抱かれていると考えると、心が安らぎます。

13年前の東日本大震災の夜、津波が去った海はとても静かで、空には満天の星が輝いていたそうです。大槌町のある方がその星の輝きをみて、「こういうときでも神様は自分たちを見守ってくださっている、と感じた」とインタビューで応えておられるのを読み、衝撃を受けました。そして雑誌『致知』4月号にも同じようなことが書かれていました。「東日本大震災で全財産を失った。ただ、この時の港を呑み込む津波の写真を見てください。緑色の立派な波でね、本当にきれいなんですよ。悔しいくらい。豊かな海産物を育んでくれる海は、津波でさえきれいなんだな、と感じ入る自分もどこかにいました」「母こそはいのちの泉 愛し子を 胸に抱きて微笑めり」私たちの住む地球は宇宙の愛し子であり、いつもいつも広大無辺な宇宙に見守られている存在です。



OISCA MAY 2024 | 5 Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 オイスカ便り 岐阜県支部
- 08 TOPIC 生物多様性の保全
～国内の森づくりの現場から～
- 10 今月のこの人 四国研修センター 研修担当 山崎敦也
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！ススめOISCA
- 14 INFORMATION 新着情報 ほか

What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持って活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

OISCAという名称の意味

O	rganization	機構
I	ndustrial	産業
S	piritual	精神
C	ultural	文化
A	dvancement	促進

人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。

国内 人材育成事業

14カ国・地域22名の新研修生が入所
初のウクライナ研修生受け入れも

昨年12月から今年4月にかけて、23年度研修生の研修修了式が各研修センターで行われ、17名が日本での学びや経験を胸に、帰国の途につきました。今年度の新研修生は1月から順次入国しており、先輩研修生の背中を追いかけるかたちで、14カ国・地域から22名が各センターですでに研修に取り組んでいます。

中部日本研修センターでは、22年度から2年間日本で学ぶ研修生の受け入れも実施し、2名が4月20日に修了式を迎えました。センターの小杉裕一郎所長は、「期間が2年となったことで、日本語の理解力が格段に向上し、日頃の研修の段取りやスピードにおいて、1年目の研修生の良いお手本となっていた。さらに2年目は農業に加えて、森づくりや地域開発についても時間を割いて学ぶことができ、帰国後の進路に即した知識や経験をより培うことができた」と話し、

今年から2年目の研修に入る4名の取り組みにも期待していると述べています。

また、今年度はオイスカ初のウクライナからの研修生も入所。現在は基礎研修として、避難民4名を学生として受け入れた経験を持つオイスカ開発教育専門学校で、日本語や日本文化を学んでいます。9月からは国際ボランティア研修生として、中部日本研修センターで農業を共に学ぶ研修生や地域の方々との交流などを通して、地域開発や日本のNGOの役割についても学びを深めていく予定です。



日本語習得に励むウクライナ研修生のオレシア

海外 マレーシア・サバ州

人材育成担当責任者らが訪問
農水産業食糧安全保障省との協約更新も

1月29日、マレーシア・サバ州コタキナバルのサバ州農村開発公社(KPD)本部にて、協約書更新の調印式が行われ、ジェフリー・キティン

ガン・サバ州副首席大臣兼農水産業食糧安全保障省大臣が署名を行いました。今後3年間にわたり、KPDオイスカ青年研修センター(以下、センター)における、地域の農村青年を対象とした研修や、

訪日研修生の派遣、「子供の森」計画事業の推進などが合意されました。

キティンガン大臣からは、これまでのオイスカの人材育成事業の成果並びに地域開発支援に対する謝意が示されるとともに、共同運営をするセンターでのさらなる農業人材の育成や、サバ州での米の増産などへの支援要請もなされました。



調印式には、同地を訪問していたオイスカ本部や国内4センターの職員6名と、センター所長も同席。サバ州の発展に向けた農業分野におけるKPDとオイスカの協力について意見交換も行われた

国内 マレーシア要人一行が来日

副首相が総局会長に新たに就任
マラ公団をはじめ政府との連携を促進

2月19日、マレーシアのアフマド・ザヒド・ハミディ副首相(地方・地域開発省大臣兼務)が、オイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁、務台俊介衆議院議員、小田原潔衆議院議員と会談し、その席上で中野総裁よりザヒド副首相へオイスカ・マレーシア

総局(以下、総局)会長の任命書が手渡されました。オイスカは1967年以来、マレー

シア政府のマラ公団を通じて青年を含む1千名超を日本に受け入れ、技術研修を続けており、その半世紀以上にわたる連携の歴史の下、同公団を管轄する地方・地域開発省の大臣が総局会長を務めることが慣例となっています。

今回は高等教育省大臣、マラ公団会長、クアラルンプール大学会長らも共に訪日し、人材育成分野の視察などをオ

イスカがサポート。今後もさまざまな形で協力関係を強めていくことを互いに確認しました。



ザヒド副首相(左から4人目)からは、マレーシアの青年育成への貢献に謝意が述べられた



国内 大阪マラソン2024

寄附先団体として9度目の参加 雨の中チャリティランナー17名が出走

2月25日に大阪マラソン2024が開催され、オイスカは寄附先団体として9度目の参加を果たしました。今回は、「海岸林再生プロジェクト」を支援するCKD(株)や化学総連、ネクスタ株からのランナーをはじめ、研修センタースタッフなど17名がオイスカのチャリティランナーとしてエントリー。大会当日は雨天となりましたが、ベテランランナーだけでなく、初めてフルマラソンに挑戦するランナーも全員が出走し、冷たい雨にも負けない懸命な走りに、岡崎昌三関西支部前会長(ネクスタ株名誉会長)をはじめ、支部会員やオイスカスタッフを中心とした応援団も熱い声援を送りました。



沿道の声援に笑顔で答えるオイスカ関西支部の上村良成会長(JR西労組中央執行委員長)

ランナーからの寄附金のほか、大阪マラソン全体で集められた寄附金は大会事務局によつてとりまとめられ「海岸林再生プロジェクト」への支援となります。チャリティランナーをはじめ、寄附や声援などさまざまな形で応援いただいた皆さま、ありがとうございました。

国内 第45回オイスカ東京フォーラム

6年ぶりとなるフォーラムに 10カ国13名の在日大使館関係者が参加

2月29日、衆議院第一議員会館でオイスカ東京フォーラムが開催され、長年協力関係がある国をはじめとするアジア・太平洋地域の10カ国13名の大使および大使館関係者が出席しました。

冒頭、オイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁から、活動の柱である研修事業の成果や各国で活躍するOBたちの紹介がなされ、今後は

そうした人材との連携をさらに促進することで活動を発展させていきたいとの意欲が示されました。

ウズベキスタン大使からは、アラル海の緑化活動にオイスカが取り組んでいることへの謝意が述べられたほか、スリランカ大使からは、インド洋沖地震後(04年)に支援をした日本への恩返しとして、能登半島地震被災地で支援を行



オイスカ国際活動促進国會議員連盟の協力により、議員会館国際会議室にて開催

ったこと、またその際にオイスカからの支援も届けたことなどが報告されました。コロナ禍による中断を経て6年ぶり45回目の開催となりました。今後も継続的に開催する予定です。

国内 ウズベキスタン政府関係者らと交流

中野総裁が外務大臣と懇談 環境省国際部長らによる活動視察も

3月8日、オイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁は、東京都内でウズベキスタンのバフティヨール・サイードフ外務大臣と面会し、アラル海で進む緑化プロジェクトにおける連携促進について懇談しました。中野総裁は、ソ連時代にウズベキスタンに抑留された日本人に対する同国民の温かい思いやりに触れ、深い感謝の意とともに、アラル海での沙漠緑化を通じて両国民の友好に寄与していくとの決意を伝えました。

翌9日には、ウズベキスタン環境省の国際部長と林野庁国際担当部長が宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」を訪問し、佐々木廣一統括の案内で育苗場や植栽地を視察。オイスカが国や県市などとの協定の下で植林・育林を進めてきたことに関心を示し、その手法やプロセスについて、多くの質問がなされました。また、プロジェクトの育苗を担う「名取市海岸林再生の会」の鈴木英二会長は、自身がアラル海の沙漠緑



ウズベキスタン環境省国際部長(中央)一行に、ポットによる育苗について説明する佐々木統括



岐阜市からの緊急車両寄贈

岐阜県支部は、1975年に設立されました。日本の真ん中に位置し、「にほんのおへそ」とも呼ばれている岐阜県は、森林率が全国2位。「清流の国 ぎふ」と呼ばれるように、きれいな水が流れる長良川などの大きな河川や、美し

い山々がある、自然豊かな環境であり、故中野良子オイスカ前総裁の出身地でもあります。また、戦国武将のドラマが生まれた土地で、歴史好きに限らず、興味をそえられる史跡が数多くあるのが特徴です。そして、「岐阜は木の国・山の国」と県民の歌にもあるように、古くから木材生産が盛んに行われてきた土地でもあります。岐阜県支部の活動は、このような森林からもたらされる恵みを受ける暮らしの中で展開されてきました。

オイスカの理念である「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指し、アジア・太平洋地域で進む農村開発や環境保全活動を支援する取り組みのほか、会員有志によるアジアの国々への植林ボランティアなど、親善訪問を続けてきました。県内においては、国際協力や国際交流促進のための啓発活動の一環として、「子供の森」計画（以下、CFP）の支援を軸に、子ども親善大使として来日した子どもたちとの交流を積極的に進めています。こうした取り組みを通じ、県下の学校との交流も長年続けてきました。特に岐阜市立柳津小学校からは文房具を贈呈していただき、オイスカ本部を通じて海外のCFP参加校に送る取り組みを13年も続けてきました。

また、地域における連携の事例として、岐阜市から消防車・救急車といった緊急車両の寄贈が挙げられます。2016年以降、更新時期に引退する車両が4回にわたり合計8台が寄贈され、各車両はオイスカ本部を通して、モンゴルなど海外の地において第二の人生を送っています。また緊急車両にとどまらずパッカ1車2台も会員企業から寄贈していただき、海外に届けた実績もあります。

支部概要

岐阜県支部は1975年（昭和50年）の発足以来、海外との協力や交流事業、CFP支援などを中心に取り組んできました。4年前に新体制に移行し、事務局を会長の会社が引き継いで企業内事務局として運営しています。

24年3月現在の会員数は、124件（法人：80、個人：44）。近年、多くの岐阜県議会議員に入会いただき幅広く活動を支援いただいています。今後、県内の森づくり活動や海外での植林活動を通じて、将来の子どもたちへの環境教育や国際交流に取り組んでまいります。

岐阜県支部 会長
小川 信也

オイスカ 便り

全国の支部や支援組織を
ピックアップして紹介します

今回は

岐阜県支部

海外プロジェクト支援を中心に 子ども親善大使の受け入れも積極的に

岐阜は
日本の真ん中
“にほんのおへそ”！

近況

REPORT

豊かな森林資源を 最大限に生かした 学びの場を提供

コロナ禍で中断していたCFP子ども親善大使事業が再開したことを受け、岐阜県支部でも受け入れを実施しました。9月20〜28日に来日したタイ・チェンライ県の小学校に通う10〜12歳の男女3人の子どもたちを22・23日の2日間受け入れ、活動報告のほか、環境学習体験などを行いました。

現地でCFPの活動に積極的に取り組んでいる親善大使らに自然環境保全の取り組みや森林についての学びを深める機会を提供すべく、オイス



岐阜森林アカデミー内のモリノスで学ぶCFP子ども親善大使ら

カ本部と連携しながら岐阜ならではのプログラムを検討。さまざまな体験を盛り込みたい気持ちもありつつ、過密スケジュールにならないよう、子ども親善大使への配慮もしながらのプログラム作りとなりました。

22日は、各務原市にある世界最大級の淡水水族館「アクア・トトぎふ」を訪問。長良川の源流に始まり、世界の川へと広がっていく、約250種類・2万2千点の生き物や植物を見学し、自然を守ることが生き物、そして自分たちの命を守ることにつながることへの気づきを得たようでした。夕方からは大垣市内で報告会を開催。大垣市長をはじめとする約30名の方々に来場いただき、子ども親善大使から彼らの地元における環境問題や植林活動についての報告をしました。その後は、地元チェンライの伝統舞踊や歌や笛の披露によりふるさとの魅力を伝え、会場に集まった会員や支援者から惜しめない拍手が贈られました。

翌日は岐阜県と連携し、森林学習施設で異なるコンセプトの森林学習を体験。1つ目



ぎふ木遊館にて

の「ぎふ木遊館」では、木材の性質、用途の多様性から森の恵みを知る木のおもちゃに触れました。木の香りを感じながら遊具としての木の役割を学習し、2つ目の施設、岐阜森林アカデミー内の「モリノス」に移動。ここでは専任ガイドの案内で、樹種や生物種の多様性から森の恵みを知る研修に参加することができました。子ども親善大使を率してきたCFPコーディネーターたちからは「日本の森を体験しながら森林リテラシーの向上が図れた」といった感想が聞かれました。

今後も岐阜の豊富な森林研修施設やイベントを活用しながら、CFP子ども親善大使事業に協力し、子どもたちに学びの場を提供していきます。

全国屈指のおいしさ、岐阜といえば飛騨牛！

岐阜といえば、やっぱり「飛騨牛」！全国の和牛の質を争う会でも日本一に選ばれたことのある、名実ともにトップクラスのお肉です。

きれいに
入ったさが
美しい！

きれいにさが入った見た目が美しく、「飛騨牛にぎり」が人気です。歯応えがありながらも、とろける肉感で、お米との相性も抜群です。きめ細やかでやわらかい肉質、脂が網をはったような霜降りとその豊かな味わいが特長とされています。

ステーキや焼き肉で脂を落としなが

ら食べるのも美味ですし、季節ものすき焼きやしゃぶしゃぶは、軽めに火を通して柔らかい肉質と甘さを味わうのに適しています。

飛騨高山へ観光に訪れた折には、風情ある街並みを楽しみながらの食べ歩きもおススメです（飛騨牛にぎりも気軽に食べ歩きができます！）。ブランド牛ではありますが、その中では、コスパの良い牛であり、お祝い事がある時や頑張った自分へのご褒美としても、ぜひご賞味ください。

岐阜県支部事務局長 杉山慎一



TOPIC

生物多様性の保全

～国内の森づくりの現場から～

5月22日は国連が定めた国際生物多様性の日です。

今年のテーマ「From Agreement to Action: Build Back Biodiversity」

(「合意」を「実行」に。生物多様性を取り戻そう。)に沿ったセミナーや会議の開催など、

今月は世界中でさまざまな関連イベントが予定されています。オイスカが取り組む

植林プロジェクトにおいても、生物多様性の保全につながっている事例が多くあり、

今回は宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」の事例をご紹介します。

海岸林復旧における 生物多様性の保全

宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」(以下、プロジェクト)は、東日本大震災の津波で流された海岸林を再生する取り組みで、37万本のクロマツを植え、現在もその管理を続けています。

日本の森林史上最大の被害となった海岸林を再生するために、国をあげて史上最大規模の成育基盤盛土を造成して海岸林を復旧することになった被災地。オイスカもこの動きを支援するためにプロジェクトを立ち上げました。仙台湾で海岸林の復旧を進める東北森林管理局仙台森林管理署(以下、仙台森林管理署)の方針にあわせクロマツを植えることとしましたが、当初は、「生物多様性の観点に立ち、クロマツ以外の木も植えるべき」といった声が寄せられることもありましたが、しかし、林野庁が設置した「東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会」で打ち出された方針でも最前線では主にマツ類の植栽が基本となって

いることに加え、このエリアは400年ほど前からクロマツが植えられていた場所であることから、オイスカはこれらを参考に今日まで活動を進めてきました。

海岸林の再生にあたっては、より強い防災機能を発揮できるように、成育基盤盛土を造成することが同検討会で決まり、その工事は仙台森林管理署によって進められました。その際には、生物多様性保全の観点に立ち、元々ある海岸の環境を残した「生物多様性配慮ゾーン」と、盛土により早急に復旧をした「防災機能優先ゾーン」とを設置し、それぞれに生物多様性の保全に向けた目標を設定。また、その評価のための「環境影響調査」も行われています。

クロマツの森にすむ 生き物たち

プロジェクトでは、広葉樹(約600本)を植えているほかはクロマツのみの単一樹種の植林を行っています。それでも19年までに行われた調査により、「生物多様性配慮ゾーン」だけではなく、「防災機

プロジェクトで確認された

動植物は

1272種

2013～16、19年の調査で確認された植物、昆虫類、哺乳類、両生類、爬虫類、魚類、底生動物類の総計



能優先ゾーン」においても確認される植物の数が年々増えていることが分かりました。13年には123種だったものが15年には212種となり、19年には277種の植物が確認されています。また今後も海岸林の成長に伴い、生物相が変化していくことが考えられるとも「環境影響調査」の報告書には記されています。

動物に関しても同様の結果です。特に鳥類においては、日本野鳥の会に所属する地元ボランティアである三浦隆さんにより定期的な調査[※]が実施され、23年にも新しい鳥類が確認されています。

三浦さんは、「結果は、海岸林に生息する鳥全てを網羅するものではなく、調査時間に偶然居合わせた鳥の記録程度」とした上で、「クロマツの生長は、裏返すと草原が減少するということ。その変化が与える影響は、草原をすみかにする鳥（代表…シジュウカラなどの（代表…シジュウカラなどの

多様な生き物のすみかに

カラ類）が増えるといったものの。今はまだその変化が進行中と思われ、今後も継続して観ていきたい」と話しています。

2023年確認鳥類リスト(抜粋)

種名	タイプ	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ミサゴ	留鳥	●		●	●			●				●	
アカゲラ	留鳥								●				
チョウゲンボウ	留鳥		●				●						
コガラ	留鳥												●
ヒバリ	留鳥			●	●	●	●	●					
アオジ	留鳥				●	●	●	●	●	●	●	●	●
センダイムシクイ	夏鳥					●							
コミミズク	冬鳥												●

ここに掲載した写真は、すべてプロジェクトで確認された動植物です。現場で汗を流すボランティアの皆さんにとっても、「キツネを見た!」「鳥の巣に卵がある!」といった発見は楽しくもあり、海岸林

が生き物たちのすみ豊かな森に育っているのを実感できる瞬間でもあります。ただし動植物の種類が多ければいいという訳ではありません。プロジェクトにとっては、クロマツの生長に影響を及ぼすクズや、侵略的外来種に指定されているニセアカシアなどでもできる限り駆除する必要があるほか、松枯れの原因となるマツノザイセンチュウを運ぶマツノマダラカミキリも侵入を防ぎたい生物です。

林野庁は、本年3月に「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を発表しました。同指針では、「森林の有する多面的機能の発揮に向けた森林管理は、森林における生物多様性保全にも資する」旨が記載されています。

プロジェクトの一番の目的は高い防災機能を発揮する海岸林を育てることではありませんが、このような私たちの取り組みが、生物多様性の保全にも寄与するとの認識を深め、今後



プロジェクトで確認された
鳥類は
69種

2013～16、19年の調査で確認された鳥類に23年の確認分を追加



今月のこの人

山崎 敦也

四国研修センター 研修担当

自己成長を感じられる毎日です！



オイスカで“人間力”を高め、
農業で人々の暮らしを豊かにしたい！

四国研修センタースタッフとして農業と研修生指導に励む山崎さんは、もともとIT関係の会社に勤めていたのですが、とある体験をきっかけに農業を通じて国際協力の道を志し、東京農業大学編入を経て、オイスカの国際協力ボランティア（以下、国ボラ）に応募。オイスカでの日々は、驚きと発見の連続で、自分の成長につながっていると話します。自身の目指す国際協力や、オイスカでの経験について聞きました。

——どうして国際協力の道に？

昔から海外に興味はありましたが、

自信もお金もなく、なかなか海外に行く機会を持てませんでした。社会人になり、お金と時間に余裕が出てきて、今なら行けるかなと某NGOの国際ワークキャンプに参加したのがきっかけです。行き先はスリランカでしたが、フランスやオランダなどからの参加者もいて、パソコンなどから参加者もいて、仕事で人との触れ合いが少なく、やりがいを見いだせなくなっていた自分にとって、純粋に楽しいものでした。

また、その時初めて物

ウズベキスタンで
購入した帽子
似合ってる？！



ちょうど海外の研修生と農業研修もできる国ボラの募集があり、応募しました。コロナ禍がなければオイスカと出会っていません。

乞いをしている人々を目の当たりにしたことも大きな要因の一つです。手や足が無い人や、障がいのある子どもだけでなく、元氣そうなおじさんまでもが物乞いをしていることに疑問を感じ、彼らが明日を心配せずに生きていけるよう、働ける場所をつくってほしいなと思いました。そして、農業なら誰でも挑戦できるし、自分で食糧をつくれたら、飢えに苦しむことが無くなると考え、「農業で人々の生活を豊かにしたい」と国際協力の道を模索するようになりました。

——どのような経緯でオイスカにたどり着いたのでしょうか

スリランカから帰国し、まずは農業と開発途上国への学びを深めようと、東京農業大学へ編入しました。そこで大学の後輩から、オイスカの植林ツアーに参加してフィリピンに行ったという話を聞き、初めてオイスカを知りました。その時は青年海外協力隊を志望していたのですが、コロナ禍で協力隊の募集が止まってしまっ。別の活動先を探していた時にオイスカを思い出して調べると、

——オイスカの活動はいかがですか

国ボラ期間を含めて3年が経ちますが、オイスカにいると、どこでも生きていけるような“人間力”の向上を感じます。無人島に放り出されてもやっていけそうな生命力というか。オイスカでは、何事も自分でやらないといけなくて、一つひとつ乗り越えていくうちに、自己成長が感じられます。

例えば、大学までは、農業は播種から収穫までの流れをイメージしていましたが、実際は草刈りもするし、土もつくる。草刈り機も使ったことがなくて、ワイヤータイプのワイヤー交換の仕方すら知りませんでした。スタッフや研修生が、いつも自然にやっている作業が徐々にできるようになり、自分の成長を感じました。



スリランカへの視察訪問。どの現場でも温かい歓迎を受け、オイスカの長年の活動が地域に受け入れられ、理解されていると実感した（24年1月）

とある日の。

山崎さんの1日

24年2月25日、オイスカが寄附先団体となっている大阪マラソンに、チャリティランナーとして参加。

自分の成長につながる良い機会だと思い、フルマラソンは初挑戦でしたが頑張りました！

05:30 起床

早起きして準備します！

08:00 荷物預けなど

チャリティランナー控室のある大阪城ホールでスタート前の準備。応援団とも合流し、完走に向けて気合を入れます！



09:50 スタート！（第3ウェーブ）

雨天で冷え込む中でのスタート。

13:00 26km地点

応援団からの激励

半分を折り返して疲れもたまっていく頃。沿道の応援が力になります。



15:10 ゴール！

無事に完走！
思うようにタイムが伸びず、少し悔しい思いもありました。



17:30 お疲れさま会

共に走ったランナーの皆さんと健闘をたたえ合いました！

近づいていると思います。いつか開発途上国で活動したいのですが、そういう現場では、必ずしも最先端の技術が求められるわけではないと感じる中で、オイスカの活動は泥臭さがあって、特にセンターでは「古

また、センターの自転車が壊れた時、パプアニューギニアの研修生がすぐに悪いところを見つけて、修理をしていました。その姿を見た時に、自分にはできないし、日本の若者の中にも自分のような人が多いんだろうなと思うと、なんでも自分の力で解決していくことがオイスカらしさなのかなと感じました。

自身を目指す国際協力には近づいていますか？

山崎 敦也（やまざき あつや）
IT会社を退職後、農業を通じて国際協力を目指し、東京農業大学で開発経済学・農業経済学を専攻。卒業後、2021年よりオイスカの国ボラを経て、同10月より四国研修センタースタッフとなる

き良き”を大事にしている。それが良いところだと思えますし、この3年間で体験した一つひとつが、海外で活動するための知識の広がりや“人間力”を高める積み重ねになっていると感じます。
農業は一年上手くいっても、翌年はだめな時もあります。将来、開発途上国で教えられるように、20年30年と長いスパンで勉強しながら、引き続き経験を積んでいきたいです。

OG 研修生からひとこと



四国研修センター OG / メキシコ

サライ（地域開発）
サンディ（家政）

私たちは2022年度の研修生です。山崎先生は親切で、日本語の発音や文法などについて、たくさん教えてくださいました。また農業についても、疑問に感じたことには、私たちがしっかりと理解できるように、時間をかけて丁寧に答えてくれました。いつでも研修生にやる気を出させてくれる、とても熱心な先生です。

いま、今度は私たちが先生として、子どもたちに農業や自然科学、環境問題などについて教えています。「子供の森」計画を通じて、母なる大地への感謝と絶滅の危機にあるメキシコ固有の植物を大切にする方法を伝えたり、家庭菜園の指導をしたりしています。またサンディ（写真右）は、家政研修の経験を活かし、メキシコの伝統料理の調理法や栄養価について学んだり、ラジオ番組に出演して、日本の文化や農業、環境保全に関するトークをしています。サライは、研修生の時に大阪マラソンを走った経験を忘れず、メキシコでもオイスカの旗を掲げて走り続けています。

日本で先生方が教えてくださったことを胸に、これからも頑張ります！

歴史さんぽ

Vol.10

「海岸林再生プロジェクト」

10年の成長を見てください！

この年植えたのは8万本。
植樹祭には市民
500名も参加しました



本数調整伐後は、
人が中に入れるスペースが。
上から見ると青々とした森に
なっているのが分かります！



2014年



2024年

東日本大震災の長期復興支援の取り組みとして始まった「海岸林再生プロジェクト」で育つクロマツの生長ぶりをご覧ください！

震災の翌年に播いたクロマツの種は育苗場で2年間管理されたのち、2014年の春、海岸に植えられました。植樹祭には市民ら約500名も参加。その時植えられた30cmほどの苗木は、今では見上げる高さまで生長。7mを超えるものもあります。

写真の植栽地では、22年に本数調整伐（間伐）を行い、約33%を伐採。それ以前は、枝と枝がぶつかり混み合っ

ていましたが、今は人も入れるようになり、光もたっぷり入ってきます。この作業により、クロマツの樹高がさらに伸び、幹の直径も太くなり、枝葉の量も増え、根系が深く広く発達します。このように強く大きな海岸林を育てることで、海からの塩や砂を食い止める機能をより高めることができ、沿岸域の農業や人々のくらしを守ることができます。

間伐はこれから数十年かけて繰り返して行われます。より強い防災機能を備えた海岸林に育っていく様子を、これからも見守ってください！

写真から伝わる
さまざまな思いに
フォーカス！



金柑(左)とは似て非なる
鶏キンカン。上に見える
のも鶏肉の煮込み料理



中部日本研修センター \\ 鶏キンカン煮 //

4月に入ると食堂で出される鶏キンカン煮。中部日本研修センターでは、会員企業の新入社員を対象にした合宿型の研修を毎年実施しています。研修生との交流や農業実習のほか、多くの参加者にとって印象に残るプログラムは「生命の循環学習」です。



鶏を解体する体験を通して、私たちはさまざまな生命に支えられて生きていること、そのすべての生命に感謝の気持ちを持つことの大切さを学びます。例年、「腕に飛んだ血も、内臓も温か

くて、スーパーで買う鶏肉では感じることのなかった生命を実感した」「いただきますは、食事を作ってくれた人だけに言う言葉ではなく、すべての生命に対して感謝の気持ちを示すための言葉だと分かった」といった感想が聞かれます。

そして夕食時にいただくのが自分たちでさばいた鶏肉料理。レバーなどと一緒においしく煮つけられたキンカンは、これから生まれてくるはずだった卵の黄身だけの状態をいいます。ゆで卵のように見えるものは、まだ殻が形成されていない状態で取り出されたもの。鶏の生命を余すことなく、ありがたくいただく特別な一品です。



BOOK

お! ススメ
OISCA

国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの「オススメ」をご紹介します!



「生きるって、なに？」

たかのでるこ 著/テルブックス 刊/500円(税別)

少年のかわいい
笑顔が目印!

「ガンジス河でバタフライ」の著者たかのでるこ氏が、学生から「生きる意味が分からない」という悩みを打ち明けられたことをきっかけに生まれた本です。旅先の写真とともに「生きるって、なに？」から始まる問いへの答えがつづられ、くよくよしたときに読むと、自分の悩みをちっぽけに感じ、また頑張ろうと思えます。人に会いたくなったり、自然の中に身を置きたくさせてくれる一冊です。(西日本研修センター T)

海岸林再生10年の記録
増補改訂版

「松がつなぐあした」

発行



写真は著者の小林省太さん

東日本大震災で被災した宮城県名取市沿岸の松林100haの再生を目指す「海岸林再生プロジェクト」。その10年間の記録をまとめた『松がつなぐあした』に、11年目以降のトピックを追加した増補改訂版が発刊されました。

大学生や高校生、若い世代のボランティアも少しずつ増えてきました。

また、海岸林再生を伝える石碑の建立、松くい虫の原因になるマツノマダラカミキリの初確認、大学や研究機関による調査・研究、マツをより強く生長させるための間伐と物語は続き、増補改訂版では、こうした初版以降の動きを知ることができます。ぼんやりしていた「あした」が、少しずつ明瞭になっていくのを実感できる一冊です。



Amazonでご購入いただけます

『松がつなぐあした』震災10年

小林省太 著
海岸林再生の記録 増補改訂版

（元日本経済新聞社論説委員兼編集委員）
□愛育出版 刊／1300円＋税

クラウドファンディングに挑戦中！（5月22日まで）

森を守ることは、生活と文化を守ること。
タイの森再生プロジェクト



第一目標金額
200万円



タイ北部チェンライ県にあるマイチャルーン村の森と水を取り戻し、住民の生活を守る新たな取り組みに、応援よろしくお願いします。

クラウドファンディングとは

インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組みです。

アリ・チョングリア
（オイスカタイ総局会長）

乾燥による被害を軽減し、地域の豊かさを促すためには、森づくりが必要です。

スラボン・アノマ村長（右）
ステイン・マンユアン（オイスカ タイ
チェンライ県フィールドスタッフ）

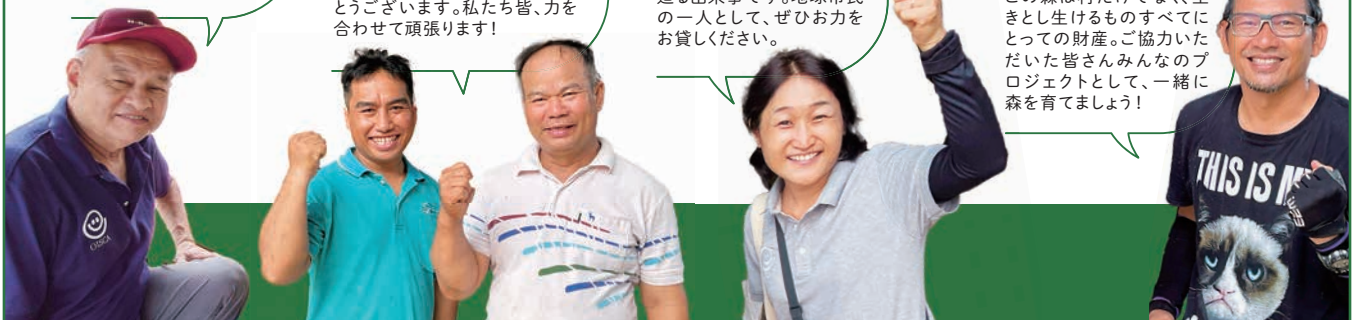
皆さまの温かいご支援、ありがとうございます。私たち皆、力を合わせて頑張ります！

春日智実（タイ駐在代表）

世界各地で頻発する自然災害。テレビの向こうの話ではなく、私たちの目に迫る出来事です。地球市民の一人として、ぜひお力をお貸しください。

プラヤット・サバンスック
（オイスカタイ総局事務局長
プロジェクトリーダー）

この森は村だけでなく、生きとし生けるものすべてにとっての財産。ご協力いただいた皆さんみんなのプロジェクトとして、一緒に森を育てましょう！



ご支援ありがとうございます！

新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。
(2024年1月1日～3月31日までの間、本部登録済分。順不同、敬称略)

■特別法人

【愛知県】スズケングループ労働組合連合会

■維持法人

【徳島県】株式会社アラジン／株式会社Engest／福岡県リコージャパン株式会社／一般社団法人オーガニックパブリシティ

■維持個人

【神奈川県】村上志緒【静岡県】渡邊寿美代／関谷浩子【愛知県】神谷幸輔／加藤健【香川県】細川裕生／酒本玲子／白河原将／是永翔也／石原勝博／永峰優一／西川健太／山内ロレナ／サウンドミュージックアミューズ／村井孝之／篠原匡生／藤岡旭／冨田翔太

サポーターの紹介

2023年4月1日～2024年3月31日までにお申込みのあったマンスリーサポーターは次の通り。
(順不同、敬称略)

【東京都】服部清香／水沼和子【奈良県】奥田修功【香川県】田中美佐子／松村雅代

寄附

2024年1月1日～2月29日までにいただいた寄附は次の通り。
(順不同、敬称略)

●全国電力関連産業労働組合総連合／「子供の森」計画と海外開発協力事業に合わせて510万円

●九州電力株式会社／西日本研修センターワンコイン・サポートプログラムを通じて人材育成事業に193万8707円

●ロジスティードまごころ基金およびロジスティード株式会社／富士山の森づくりに120万円

●デリシャス株式会社／「子供の森」計画に100万円

●九州電力労働組合／海外開発協力事業に65万円

●ネクスタグループ(ネクスタ株式会社・ネクスタパッケイ株式会社・ネクストラップビイ株式会社・ミツワ紙工所)／人材育成事業と海外開発協力事業と「子供の森」計画と「海岸林再生プロジェクト」に合わせて66万4758円

●仙台トヨベット株式会社／「海岸林再生プロジェクト」に27万7510円

●リタ・マークス株式会社／海外開発協力事業に24万7800円

●ホッコー商事株式会社／啓発普及事業に22万2112円

●株式会社天狗堂／「子供の森」計画に20万円

●株式会社Hacoa／「子供の森」計画に19万1470円

●CKD株式会社／「海岸林再生プロジェクト」に18万952円

●丸真株式会社／「子供の森」計画に17万5696円

●トヨタモビリティパーツ株式会社九州北部統括支社／西日本研修センターワンコイン・サポートプログラムを通じて人材育成事業に11万4645円

●北電産業株式会社／啓発普及事業に11万4583円

●北陸電力株式会社／啓発普及事業に11万4496円

●立山科学株式会社／啓発普及事業に10万9115円

●株式会社ハーモニック／「子供の森」計画に10万7580円

海外赴任



3月13日、石橋幸裕フィリピン・マニラ事務所駐在代表が、同事務所へ再赴任しました

●山本哥子(福岡県)／人材育成事業に10万円

●岩田産業株式会社／人材育成事業に10万円

●株式会社ミリー／人材育成事業に10万円

編集後記

2011年からオイスカ誌の編集に携わってきましたが、本号をもって編集を卒業いたします。これまで大変お世話になりました。今後は海外事業部の立場で現場からの報告をお届けしてまいります。これからもよろしくお願いします。(林)

次号予告

OISCA
JULY | 7
2024

《TOPIC》
フィリピン
CFPの現場を歩く(仮)

OISCA 5月号 定価160円
発行人／中野悦子
発行所／公益財団法人オイスカ
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
編集：OISCA／林久美子 倉本有沙
アートディレクション／土肥幹人
デザイン／土肥幹人 坂巻貴行
印刷・製本／株式会社ケープリント

本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転載を禁じます。



撮影者が興奮気味に語るには、クロマツの林の中を歩いていると低空で横切る大きな鳥がいたとのこと。付近を探すとフクロウが眠そうな顔で防風柵に止まっていて、撮影に成功。至福の時間を過ごせたそうです。(宮城県名取市)

今月の表紙写真

Photo by Yoshida Toshimichi



理念 — 人と育む、地球といきる —

Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

Spirit

Visionを達成するために、
私たち一人ひとりが
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一歩ずつ積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 経験から学び進化する
- 感謝の心を持つ
- 真摯である
- へこたれない
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口） 法人／10万円 個人／5万円

● 維持会員（年額1口） 法人／4万円 個人／2万円

● マンスリーサポーター 個人／月々2,000円～

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。

※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

● 「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。

※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは

公益財団法人
オイスカ〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
<https://oisca.org/>

国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103
関西研修センター 〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川120 ☎072-738-3699 ☎072-738-3901
四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラリス生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685
宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-265-3350
首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財)オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111
山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951
長野県支部 〒380-0838 長野市東町584 長野県経営者協会総務部内 ☎026-235-3522 ☎026-235-3529
富山県支部 〒939-2226 富山市下夕林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128
静岡県支部 〒431-1115 浜松市西区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981
愛知県支部 〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103
岐阜県支部 〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100番地 太平洋工業㈱本社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419
関西支部 〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町4-4-1 新御堂ビル ☎06-6244-2366
広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネルギーL&B/パートナーズ内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706
四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本支部 〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

OISCA NETWORK

福 島 〒963-0534 郡山市日和田町字大窪50-8 (南根本産業内) ☎024-958-2643 ☎024-958-3741
茨 城 〒311-0113 那珂市中台852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539
神奈川 〒231-0003 横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター ☎080-5016-2584
三 重 〒510-0958 三重県四日市市小古曽1-1-7 中村建設㈱内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745
奈 良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277
岡 山 〒700-0011 岡山市北区学南町2-6-11 PORTA美容室内 ☎086-252-3027 ☎086-252-3027
徳 島 〒770-8555 徳島市寺島町東2-29 四国電力徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511
愛 媛 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682
高 知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572
佐 賀 〒840-0826 佐賀市白山2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368
長 崎 〒858-0908 佐世保市光町109 戦艦内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069
熊 本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162
大 分 〒790-0002 大分市浜の市1-3-7 ㈱大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040
宮 崎 〒880-0843 宮崎市下原町227-6 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673
鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833
沖 縄 〒902-0077 沖縄県那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881